

キャベツレポート

1 作付面積の動向

作付面積は、若干の減少傾向にあるものの、近年概ね 33 千 ha～35 千 ha で推移している。

県別の作付割合は、愛知県が 16%と多く、次いで群馬県が 10%のシェアとなっている。これを作型別にみると、平成 19 年産は、春キャベツが 8,720ha、夏秋キャベツは 10,000ha、平成 18 年産冬キャベツは 14,200ha となっている。

(単位:ha)

県 名	13年産	14年産	15年産	16年産	17年産	18年産
愛 知	4,310	4,500	4,710	4,650	5,150	5,100
群 馬	3,440	3,420	3,460	3,440	3,400	3,390
千 葉	3,080	3,040	3,040	3,040	3,020	3,020
茨 城	2,030	2,050	2,010	1,930	1,900	1,890
神奈川	1,810	1,800	1,790	1,750	1,730	1,720
北海道	2,080	1,890	1,810	1,770	1,680	1,600
全 国	35,800	34,900	34,400	33,300	33,500	33,000

資料：農林水産省「野菜生産出荷統計」

2 収穫量及び 10 a 当たり収量

(1) 収穫量

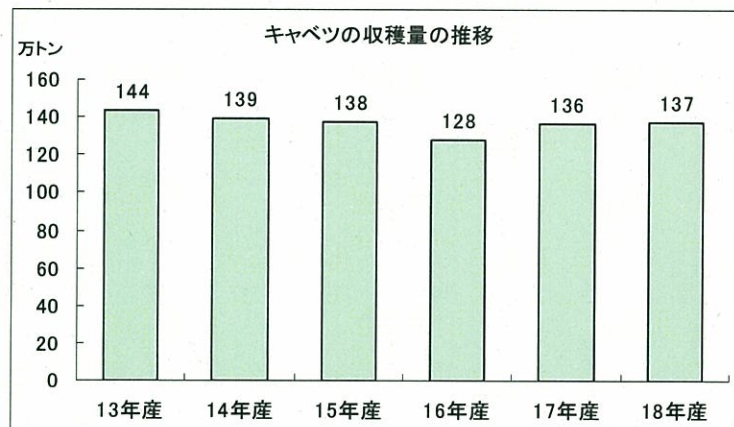
収穫量は、台風、長雨等の影響で市場供給量が減少した平成 16 年産を除くと、年間 136～143 万トン程度で推移している。作型別の平成 18 年産収穫量をみると、春キャベツが 34 万 3 千トンで主産県は千葉 17%、神奈川 15%、茨城 11%であり、夏秋キャベツが 43 万 9 千トンで主産県は群馬 48%、長野と北海道が 12%となっている。また、冬キャベツが 58 万 9 千 9 百トンで主産県は愛知 37%、千葉 12%となっている。

① 全国

(単位:トン)

	13年産	14年産	15年産	16年産	17年産	18年産
愛 知	212,800	215,300	219,000	202,600	245,300	252,300
群 馬	194,500	200,400	200,000	206,500	213,100	218,100
千 葉	132,500	120,500	126,300	127,400	127,400	131,200
茨 城	88,900	88,300	87,000	78,200	82,700	83,900
神奈川	87,100	85,900	85,300	79,500	82,300	82,300
北海道	83,600	77,800	78,100	74,000	71,300	67,300
全 国	1,435,000	1,392,000	1,376,000	1,279,000	1,364,000	1,372,000

資料：農林水産省「野菜生産出荷統計」

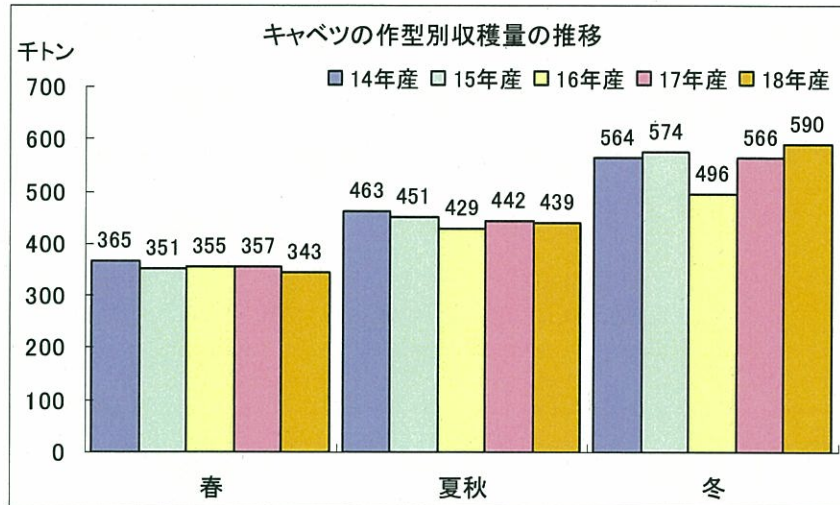


② 作型別

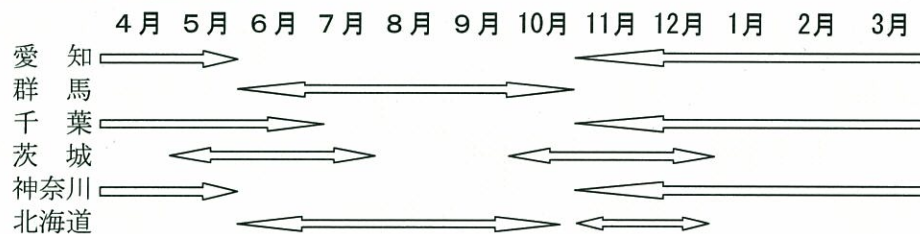
(単位:トン)

	13年産	14年産	15年産	16年産	17年産	18年産
春	371,100	365,300	351,200	354,800	356,900	343,000
夏秋	471,300	462,800	450,600	428,700	441,900	439,000
冬	592,400	564,000	574,400	495,600	565,600	589,900
計	1,435,000	1,392,000	1,376,000	1,279,000	1,364,000	1,372,000

資料：農林水産省「野菜生産出荷統計」



③ 出荷期間別主要産地

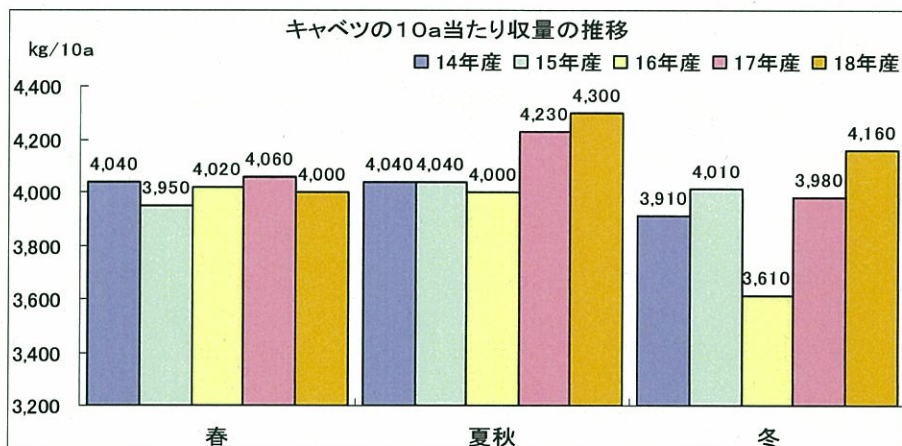


(2) 10a 当たり収量

(単位:kg)

作型	13年産	14年産	15年産	16年産	17年産	18年産
春	3,990	4,040	3,950	4,020	4,060	4,000
夏秋	3,940	4,040	4,040	4,000	4,230	4,300
冬	4,090	3,910	4,010	3,610	3,980	4,160
計	4,010	3,980	4,010	3,850	4,080	4,160

資料：農林水産省「野菜生産出荷統計」



3 消費・価格の動向

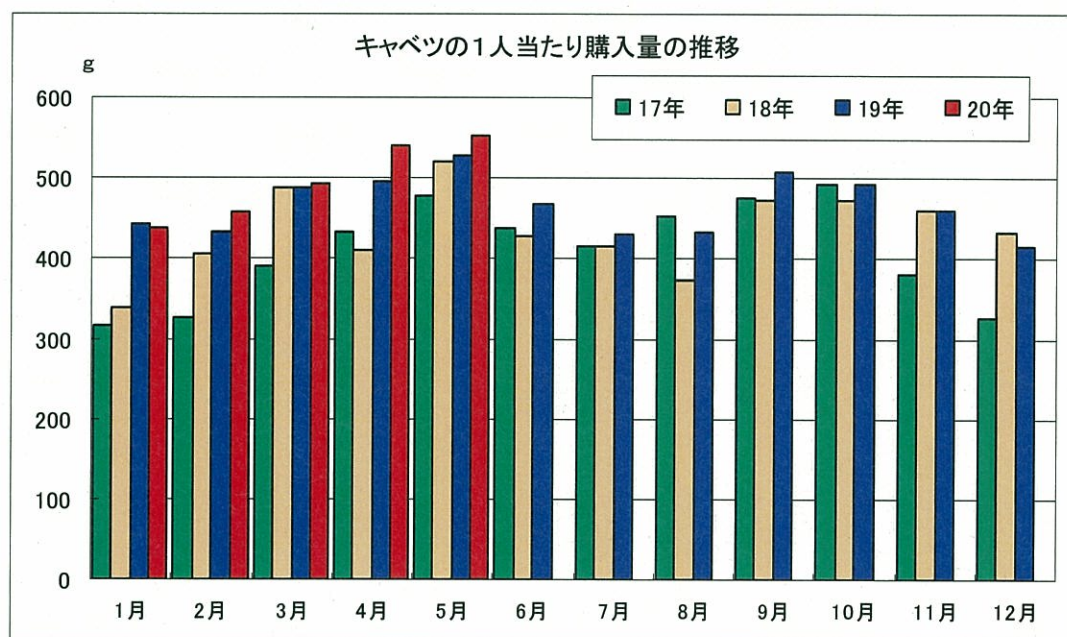
家計調査で、1人1ヶ月当たりの消費量をみると、流通量が多く用途が広い野菜であることから、春キャベツの流通する時期に消費が高まる傾向がみられるものの、1年を通じて安定的に消費されている。

(1) 家計消費

○キャベツの1人当たり購入量

(単位:g)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
13年	322	378	450	452	528	431	369	467	482	446	399	349
14年	375	406	450	498	469	403	397	437	465	477	364	360
15年	330	390	453	415	467	439	398	479	389	441	418	343
16年	343	392	413	471	509	373	367	422	467	428	333	350
17年	315	327	390	434	477	437	417	452	475	493	380	325
18年	339	405	487	410	521	429	417	374	473	474	460	432
19年	443	434	488	496	529	468	430	434	507	493	461	417
20年	439	458	494	540	553							

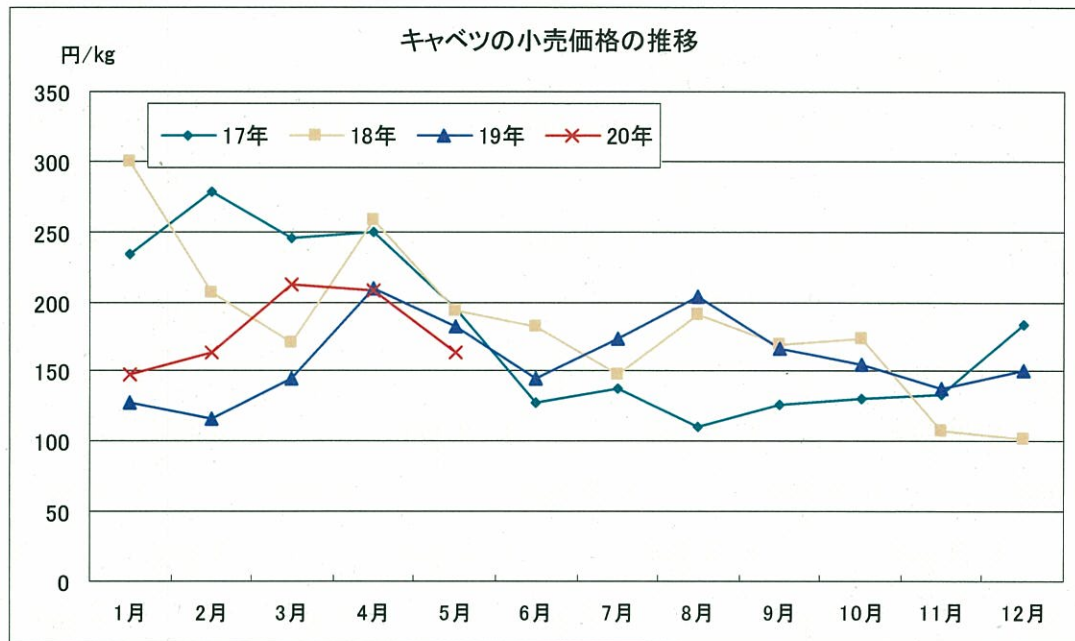


資料：ベジ探、原資料：総務省「家計調査報告」

(2) 小売価格（東京都区部）

(単位:円/kg)

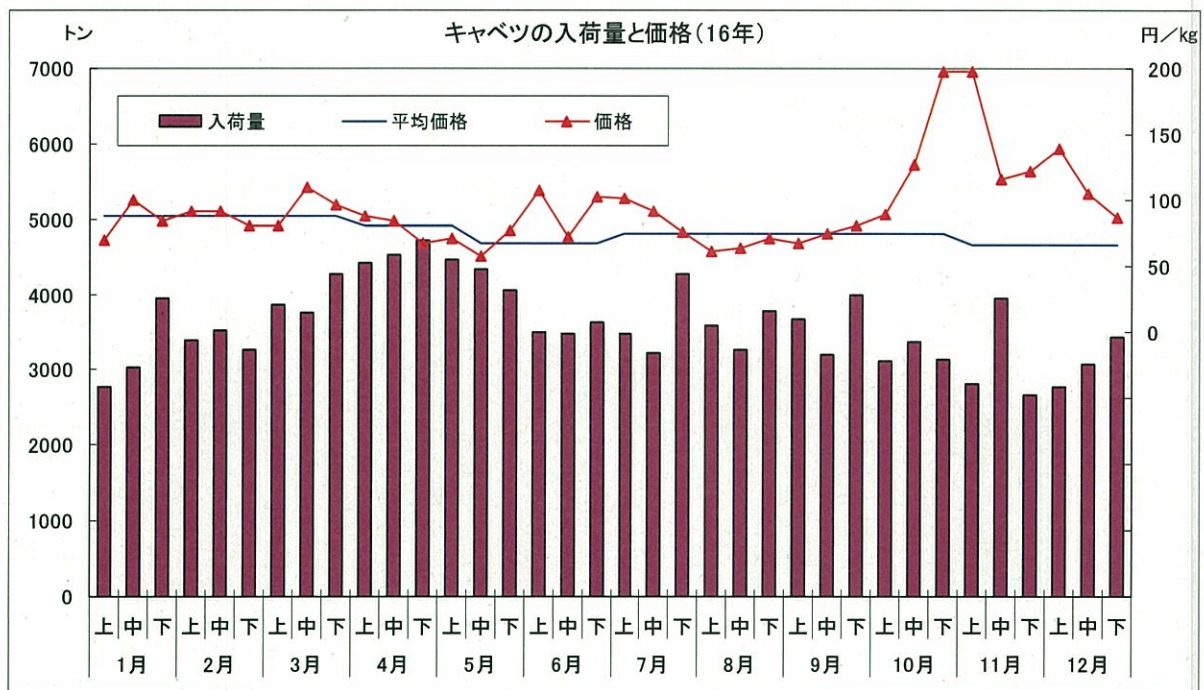
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年平均
13年	284	283	246	693	167	132	172	163	147	187	121	141	192
14年	175	124	133	167	172	183	179	175	158	156	198	225	170
15年	233	218	202	271	217	136	156	147	195	148	107	119	179
16年	183	197	194	200	151	196	181	149	145	230	339	237	200
17年	234	278	246	249	195	127	138	111	126	130	134	184	179
18年	300	206	171	258	194	182	148	191	169	173	108	102	184
19年	128	116	145	209	182	145	173	203	166	155	137	150	159
20年	148	163	213	208	164								



(3) 東京都中央卸売市場の入荷量と価格

① 平成 16 年

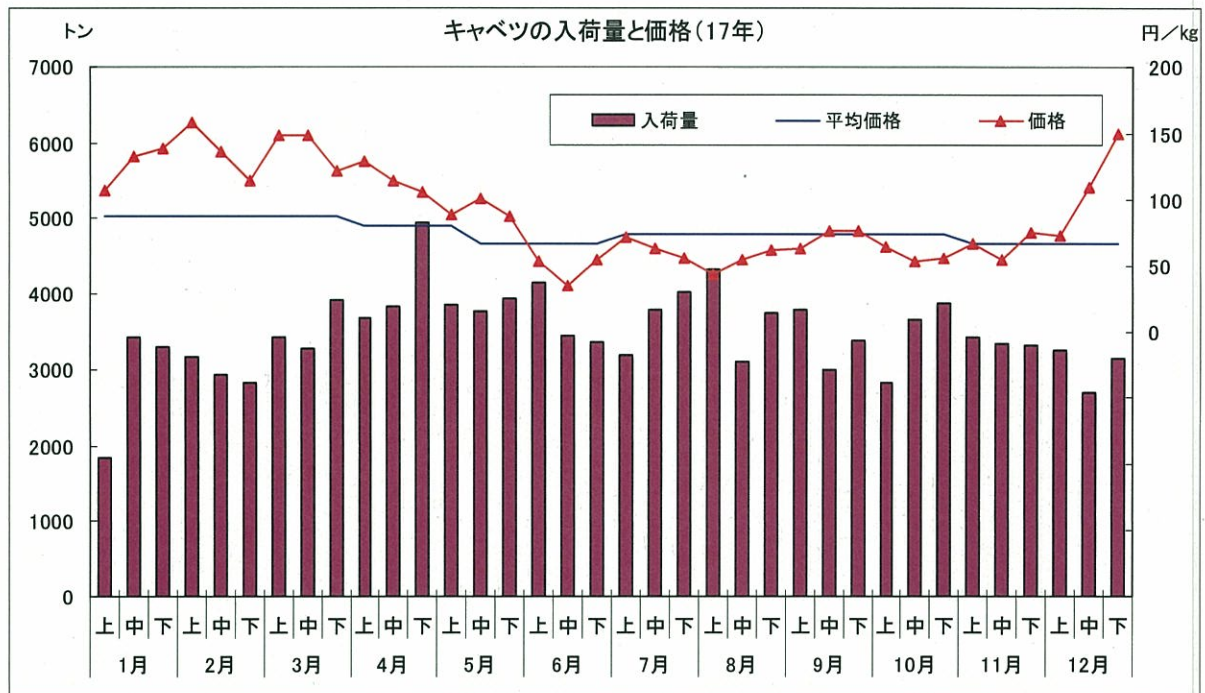
秋に台風長雨等の影響で市場供給量が減少し、価格が高騰した。



資料：ベジ探、原資料：東京都中央卸売市場年報（以下同じ）

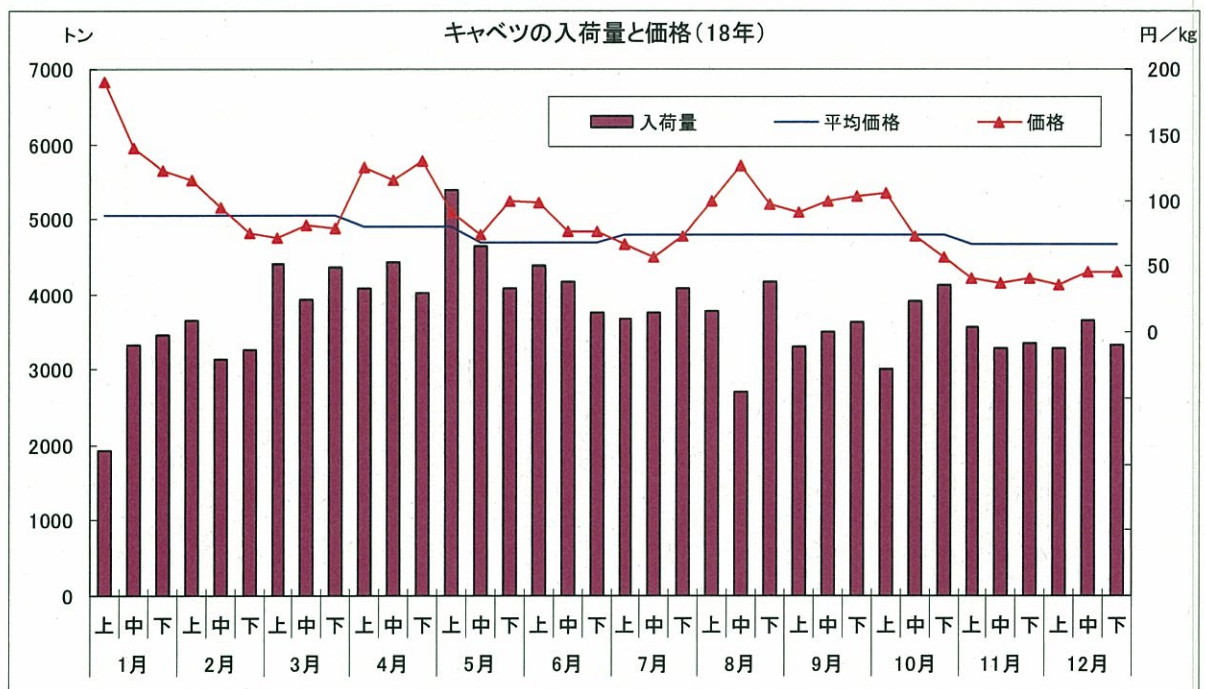
② 平成 17 年

夏は、好天に恵まれて供給量が増え、価格が低迷した。そのため、6月中旬から8月下旬に緊急需給調整（21千トン）を実施した。また、年末から年明けにかけて寒波等の影響で価格が高騰した。



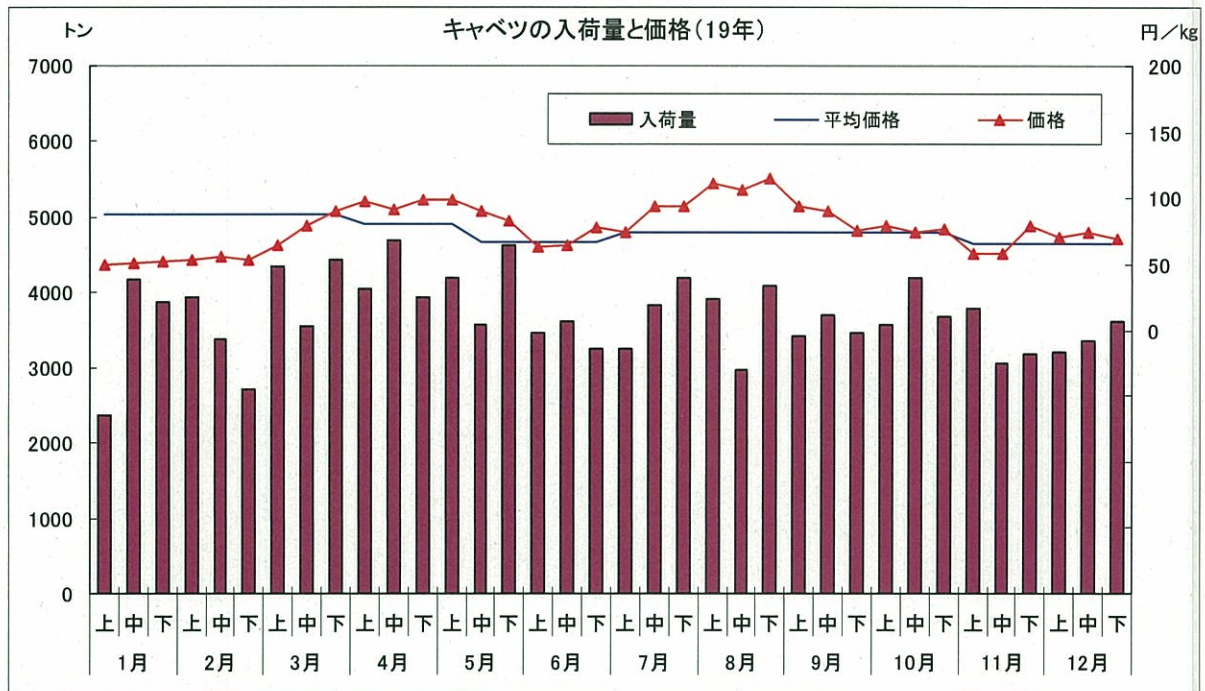
③ 平成 18 年

7月下旬から8月にかけて、日照不足、大雨の影響から価格が平年に比べて高値となった。秋以降は好天に恵まれ供給量が増えたことから価格が低迷した。そのため12月上旬に緊急需給調整(7千トン)を実施した。



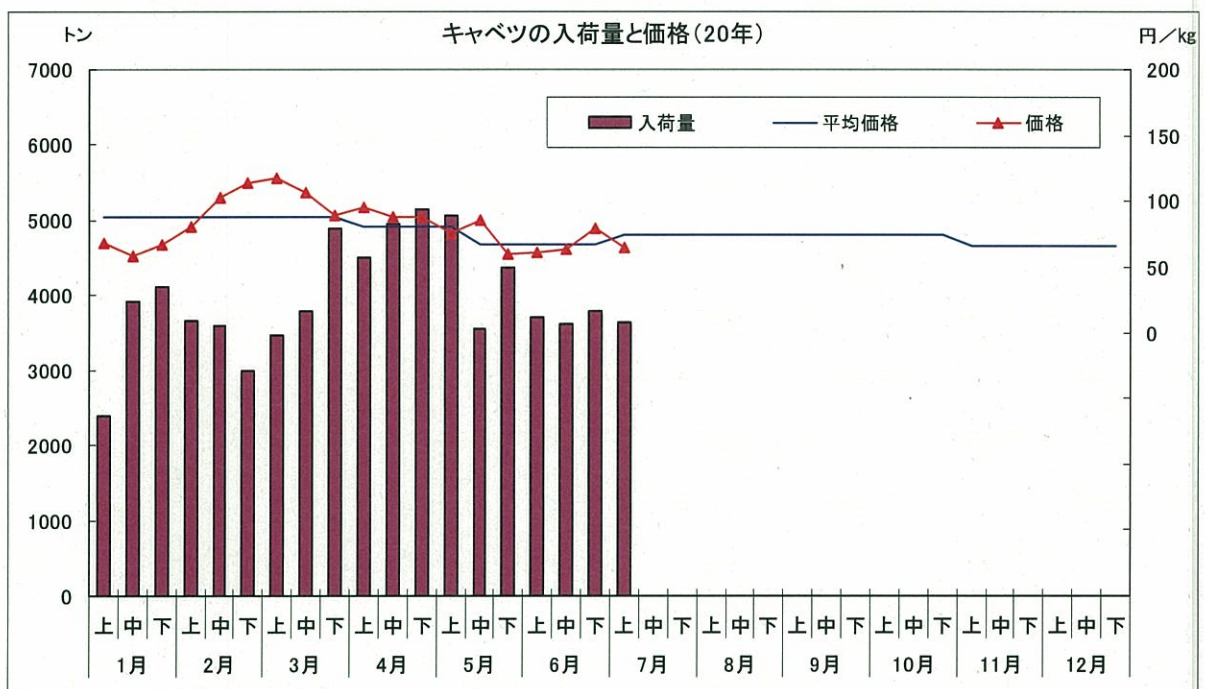
④ 平成 19 年

3月から4月にかけて低温、日照不足の影響から主産地からの入荷が減少したことから、4月上旬から5月中旬にかけて、価格が平年に比べて高値となった。また、関東を中心に5月中旬に降雪があり、千葉県産に被害が出た。



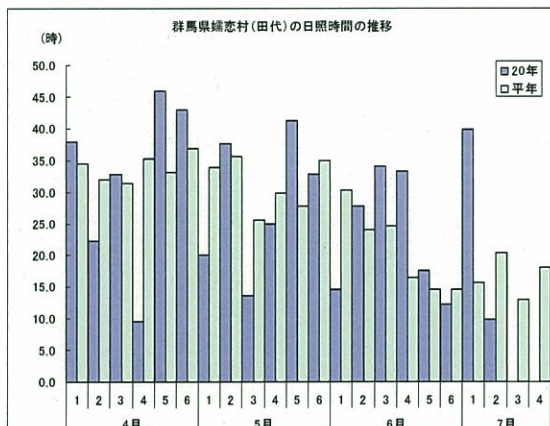
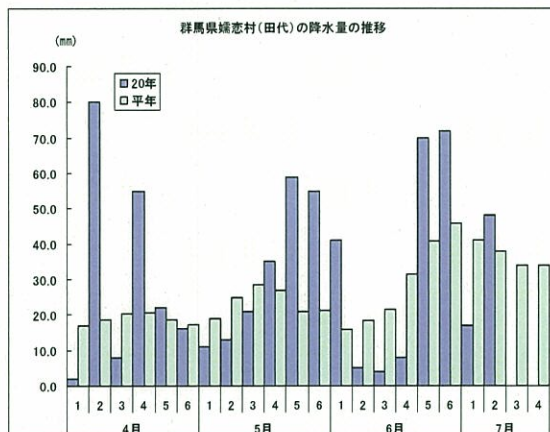
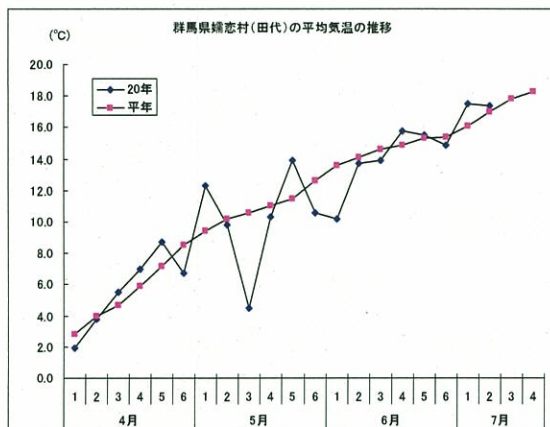
⑤ 平成 20 年

年明けは主産地の生育が順調であったことから、価格は軟調に推移したが、2月は曇天・冷え込みから価格は回復した。3月から4月中旬まで、低温の影響から入荷量が減少し、価格が平年に比べて高値となった。その後、主産地の出荷量が増加したが、需要が鈍かったことから、価格は下がった。

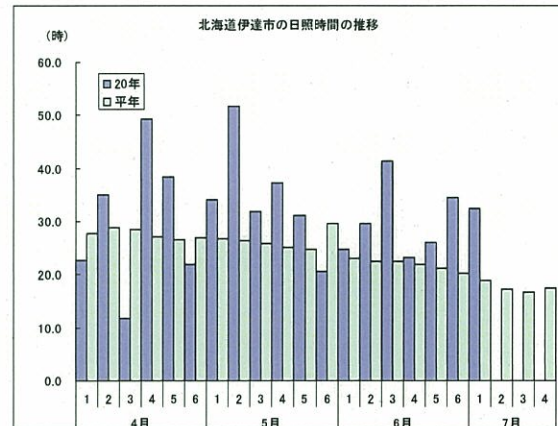
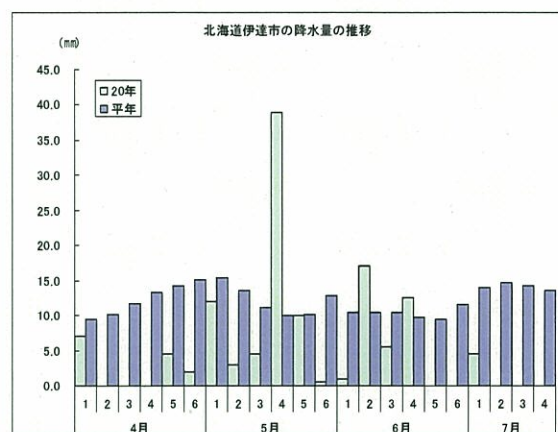
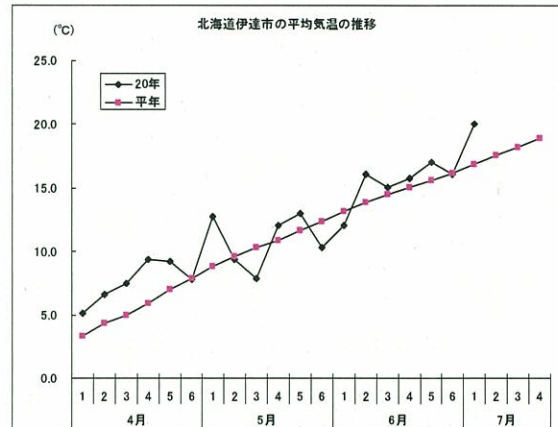


4 夏秋キャベツの主要産地の天候

群馬県嬬恋村



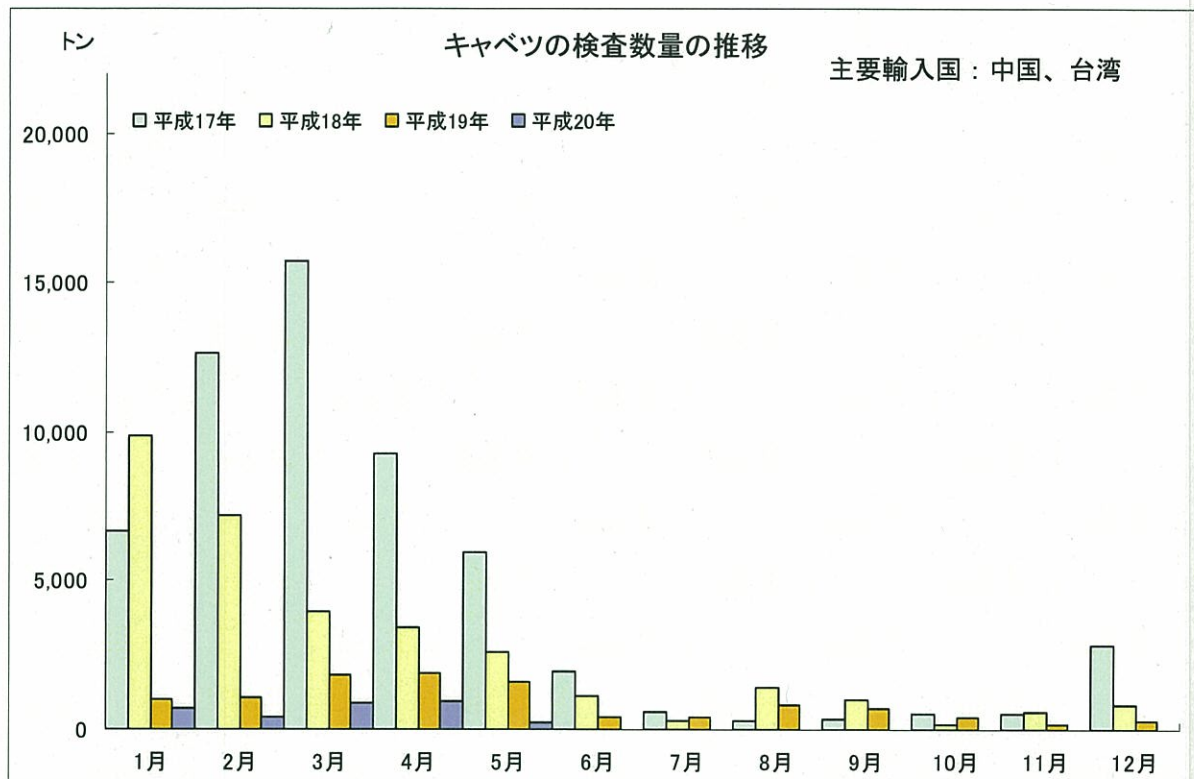
北海道伊達市



資料：ベジ探、原資料：気象庁「アメダス」

5 輸入動向

国内主要産地が気象災害等により国内産キャベツの供給量が減少するときには、緊急的な輸入が行われる傾向にある。



資料：ベジ探、原資料：農林水産省植物防疫所「植物防疫統計」

6 キャベツの栽培特性・品種等

キャベツは、生育適温 15℃から 20℃で、冷涼な気候を好む野菜であることから、冬場は温暖な海岸線に近い愛知県、千葉県、神奈川県、夏場は群馬県の高原地帯や北海道での栽培と産地が分かれている。

キャベツは、アブラナ科であることから連作が困難な作物である。また、高温に遭遇させず、いかに花芽分化を抑制して結球を促すかがポイントとなる。

外葉が 17 から 20 枚程度になると、光の影響により葉の裏と表の植物ホルモン、オーキシンの量に差ができ、葉の内側の成長が活発となり葉が巻かれる。このため、新しい葉も巻き込んで結球する。

＜主要産地の主な栽培品種＞

北海道：(夏秋・冬)藍春ゴールド、涼波

(冬) 冬駒

茨城：(春)金系 201EX、YR 青春、新風

(冬)藍宝、YR 金春、新藍、あさしお、冬王、金宝、彩ひかり等

群馬：(夏秋) YR 新風、雷電、甘藍、YR 青春、葵、YR 藍宝、岳陽

千葉：(春)金系 201 系、珠風

(冬)春系 305

千葉：(秋)金春

(冬)金春、グリーンスター

(春)金系 201EX

愛知：(冬)さち春、いろどり、さちぞら